



## 大雨被災農地の清掃ボランティア活動について

8月上旬の記録的な大雨により、りんご園地等の冠水が発生しました。ひろさきボランティアセンターでは、園地のごみを撤去するボランティアを募集し、8月6日からボランティア活動を実施いたしました。9月25日まで、作業日数27日間、のべ874名のボランティアの方にご協力をいただきました。

個人で参加された中には、市外や県外からボランティアに参加された方も多く、また、地元の大学生や高校生、岩手県野田村の村民や村職員、県内外のライオンズクラブや全国にネットワークを持つ技術系災害支援チームの一般社団法人オープンジャパンなどに活動協力をいただきました。

ご協力いただいたボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。



# 8月20日、21日 一日体験ボランティアを実施しました!!

## ・一日体験ボランティア事業とは

ボランティア活動の普及啓発を図るため、ボランティアに興味がある、ボランティアをしてみたいと考えている市民や学生に、ボランティア活動の場を提供し、ボランティア活動を始めるきっかけづくりとするものです。



## ・当日の様子を紹介します

第2回一日体験ボランティア事業は、高校生6名がボランティアとして参加し、令和4年8月21日に弘前市社会福祉センターで行われた「東部仲町まつり」の、まつり前日の会場設営、当日の受付等のお手伝いをしました。

まずは、ボランティアとは何か、心構え等について、ひろさきボランティアセンター職員から説明を受けます。

当日の作業内容について、まつりを主催する町会から説明を受けています。



まつり前日の会場設営。  
みんなで協力して観客席を準備しています。

まつり当日、学習会の受付をしています。

最後は、まつり参加者と  
一緒に「どだればち」を踊りました。





## 一日体験ボランティア参加者の感想を紹介します！

今日初めてボランティアをやってみて、最初はなにをやればいいのか分からなかったのですが、自分から率先して仕事ができたとします。また、幕をやる時もお茶を冷蔵庫に入れる時も、率先してできたとします。少しの間でしたが、役に立っていればいいなと思いました。ボランティアをしてみても、またボランティアをしてみたいと思いました。

今日のボランティアが自分にとって初めてのボランティア活動になって、最初は自分がすべき仕事を見つけることができずにいましたが、時間がたつにつれ、積極的に仕事をみつけることができました。今回は人数も多い為、仕事が少なかったのですが、これから参加するボランティアには、もっと大変さが出てくることもあると思います。これからも積極的に参加し、今日学んだことを生かしたいです。



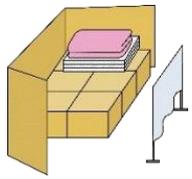
今日この東部仲町まつりのボランティアをやってみて、最初は何をやればいいのか分からなくて、自分から行動できていなかったけれど、どんどんやっていくうちに自分から行動できるようになれたので良かったです。またこのボランティアをやる機会があったらやろうと思いました。このボランティアを通して自ら行動する大切さなど、様々なことを知ることができたので良かったです。

去年も含め、2回目の仲町まつりのボランティアで、計4日の参加になりました。私は2年とも受付をしたのですが、去年よりも来賓の方々に自分からすすんで声をかけることができるようになっていました。それは、仲町まつり以外のボランティアに積極的に参加してきたおかげでもあるのかなと思いました。今年は、受験などもあり、たくさんの参加はむずかしいかもしれませんが、また機会があれば、参加したいです。ありがとうございました。

ボランティア活動に参加するのは初めてで、最初は不安や緊張があったけど、いざやってみるとそんな感情はすぐなくなるくらい大変だけど楽しくやりがいを感じることができた。今回の体験でボランティアや人のために働くことの楽しさや意義を学ぶことができ、今後もボランティア活動をやってみたいと思うことができた。



昨年このボランティアに参加したのですが、昨年は車の整理、今年は受付ということで、初めての経験ができて良かったです。こんな風に経験を積んでいくんだなと思いました。また、昨年よりも積極的に動けたと思っているので、その点も成長したと感じました。最後の踊りは、踊り始めは恥ずかしかったが、途中で楽しく感じました。また、昨年よりも完璧に踊れたと思いました。楽しく参加できて良かったです。ありがとうございました。



# ひろさき未来創生塾 防災ワークショップに参加して ～あなたにもできる防災～



今回は弘前医療福祉大学で行われたひろさき未来創生塾「防災ワークショップ」に参加させていただきました。前半では、同大学講師でもある荒谷雄幸さんの東日本大震災（以下 3.11）における救助活動の経験から見てきた防災に対する心構えについて学びました。震災の現場では 333 の法則が重要で、3 時間後に現場状況の把握、3 か月生活の立て直しに時間を使い、3 年間で復興へ向けて活動していく中で、次の震災に備えることが重要であるという考え方は、個人という単位を越えて、家族、自治体、ひいては国単位で考えていかなければならない課題だと感じました。

また、震災時に得られる情報は数限りあるものです。さらに、震災時には高確率で停電が発生します。その際に大切なのは、「普段何気なく得ている情報を、積極的に自ら取得していく姿勢が必要なんです」と荒谷さんは我々に伝えてくれました。何が起こるか分からない予測不可能な状況であるからこそ、既存の常識に頼らず、自ら知識をアップデートしていくことが大切なんです。

後半では、弘前医療福祉大学の生徒の皆さんの指導のもと、実際に震災の現場で使用されている防災グッズである段ボールベッド、簡易トイレ、仕切り組み立て体験を行いました。実際に制作してみて感じたのは、組み立てが一般の方にも分かるよう簡単な制作手順で作られているという気づきでした。震災という非現実的状况の中で、少しでも早く日常生活に近い形で生活を送ってほしいという発案者の思いが伝わってきました。

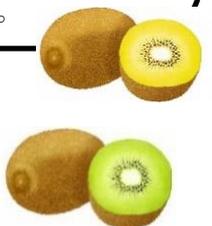
そして何より、私がとても感動したことは、今回ご協力頂いた弘前医療福祉大学の生徒の皆さんが『誰かの役に立ちたい』というおかげさまの精神で将来を考えている点です。組み立て体験の合間に 1 人の生徒さんにお話を聞いたところ、「3.11 が起こったとき、自分はまだ小学生だった。誰かに助けられる立場から、今度は誰かを助けることができる存在になりたい」と語ってくれました。素晴らしい人生設計ですよ。今後 20～30 年前後の間に大規模な被害状況を生むであろうと予測される『南海トラフ地震』や『活火山の噴火が起こる』とも言われています。皆さんも自分にできる防災を見つけてみてはいかがでしょうか？（石岡）



## 豆知識

### 『キウイ』

秋の味覚と言えばリンゴはもちろん、栗や梨の果物類にさつまいもやかぼちゃ、キノコ類と豊富です。しかし年中食べられているものの、意外にこの時期旬なのがキウイフルーツ。日本では愛知県が一番の産地ですが、マタタビ科のキウイフルーツは耐寒性が高く、マイナス 10℃程度まで耐えられるため、本県でも栽培は可能です。雌雄異株のためオス株とメス株を両方植える必要があり、ツル性なため 10m 近く伸びるので、大分スペースを取りますが、株自体はコンテナや鉢植えでも栽培可能です。花は 6 月頃に咲き、霜の降りる前 10 月頃になると収穫できるようになります。ただ、ツルの勢いは強めなので他の植物から離して植えるか、果樹棚を用意するのがよいかもしれません。果実は収穫後リンゴと一緒にしておくことで追熟させることができます。旬のものが出回り、購入して楽しむのもよいですが、自分で育てたものを収穫して楽しむのもまた一味違った秋の醍醐味かもしれません。



〈制作〉市民ボランティアスタッフ 〈制作協力〉ひろさきボランティアセンター  
〒036-8003 弘前市大字駅前町 9 番地 20 ヒロロ 3F ヒロロスクエア内  
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822 HP: [www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/](http://www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/)  
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。